

JUNGIDO

1898 =  = 1995

1998年は創立100周年です

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人/宇野 勝
 発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所2-11-1
 TEL0775-24-4295・0775-23-2304(校友課) FAX 0775-24-1732
 発行日/平成7年10月31日
 編集人/広報部会・谷口啓司
 印刷/有限会社服部印刷所

CONTENTS

70,80,90周年を振り返って	1
100周年事業が盛りあがってきました	2
100周年実行委員会部会報告	3
周年記念同窓会	4
同窓会費納入状況	4
平成7年度総会開催される	5
会費未納の方へのご案内	5
恩師訪問	6
OB近況報告	7
膳所NEWS	8
膳所高生今昔	8

VOL.7

100周年記念式典 開催日決まる！ 平成10年11月7日(土)



詳細は3面に掲載

100周年を迎えるにあたり 70、80、90周年を 振り返って

じょうくわい

100周年記念事業実行委員会副会長
 滋賀県立膳所高等学校同窓会会長
 滋賀県立膳所高等学校同窓会副会長
 岩崎 栄三



私は膳中43回5卒(昭和20年卒)です。在校時は戦時中で大変な時代でした。今も当時の生々しい思い出が彷彿として眼の前を過ります。

昭和47年に長男が、50年に長女が母校に入学した関係で6年間PTAに携わって参りました。その当時の同窓会長は故藤沢閣下で、PTAと同窓会のパイプ役として同窓会の会計を命ぜられ、次期故西田善一会長を経て、浅田由男会長の時に副会長の要職を務めることになり、浅田会長ご勇退後、会長を引き受けることになりました。昭和55年だったと思います。平成3年、宇野勝現会長に交替し、長かった同窓会活動に終止符を打ち、勇退するはずが、「70、80、90周年事業を知る人間が100周年に残らなければ」と、また引っぱり出された次第です。

70周年の記念事業(故藤沢会長時)は、特に記念誌の発行が主で、校友課担当の清水良虎先生が懸命な努力をされ、膳所らしい見事な記念誌が発行されました。80周年(故西田会長時)は、今の同窓会館(生徒のトレーニング会館)が記念事業として建設されました。

その為の募金の目標額は1億円で、武ノ内先生が市内の卒業生を限無く依頼に廻られる程努力されたが、目標額に到底及ばず、最終的に山本清一建設委員長の強行突破で、今の会館を完成し、拍手喝采を得、記念総会が、今までにない盛り上がりを見せたのが印象的でした。90周年(私の時)は、久保貞雄常任委員長の議長採択で100周年を迎える為の前哨段階として位置づけ、思いきって記念事業を取り止めることに決めました。100周年に向かつての計画が立案され始めましたが、募金が先なのか、事業計画が先なのか、最終的結論は難しく、取り敢えず、基金を生み出す為、手拭、ネクタイを制作、販売し、利益を得ました。また、「膳所の歩み」をフィルム収録した映画を三品副会長等のご尽力で作成し、100周年に向けてのPR効果を狙いました。この映画は当時、各学年同窓会等に貸し出し、好評でした。物事には節々があります。100周年は一番意義のある大きな節目です。すでに実行委員会も発足し、その会則も確定し、頼もしい限りです。私は実行部隊ではなく、温かく見守る立場で100周年に参加したいと思えます。過去の各周年に留意する事なく、対外的に見栄をはる事なく、「公立高校・膳所」らしい地味な、しかしキラリと光る100周年になれば幸いです。私も微力は惜しみません。100周年の成功を心よりお祈り致します。



会費納入ありがとうございました。

同窓会会費納入状況

昨年4月から納入いただいております。平成6年度の同窓会会費は、平成7年9月末日現在、

総額 **10,001,800円**

に達しました。昨年度と比べると約400万円のダウンです。会員の皆様のご理解に感謝しますと共に、ますますのご協力をお願いいたします。今回、振替用紙を同封させていただいた方は今年度会費が未納となっています。ご納入いただくようお願いいたします。くわしくは5ページをご覧ください。(財務部会)

平成7年度、同窓会定時総会が、去る5月14日(日)琵琶湖ホテルに於いて開催されました。当日は、午前9時半から受付開始、同10時に開会。開会宣言の後、全員で校歌斉唱。物故者の黙祷と続き、宇野勝同窓会会長および、武原淳学校長のごあいさつをいただきました。その後、本校教職10年以上の勤続職員に感謝状が贈呈されました。飯田勝一常任理事長を議長に選出した後、議事に入り、以下の項目が満場一致で議決承認されました。

- (1) 平成6年度会務報告
- (2) 平成6年度会計報告並びに会計監査報告
- (3) 平成7年度事業計画並びに予算案
- (4) 役員改選

役員改選については100周年までは基本的に現役員という事で了承されました。議事終了後、膳所高10回卒の長崎和夫氏(毎日新聞社論説委員)による「政界再編の見通し」という演題の講演がありました。講演終了後、懇親会に移り、166名もの同窓生が旧交を暖めました。尚当日の総会参加者は178名でした。(新川 均)

来年の総会は5月12日。総会には毎年5月の第2日曜日です。多数のご参加をお待ちしています。

平成7年度 総会報告

100周年事業が 盛りあがってきました。



100周年まであと3年 皆さまご支援ください！

このように変化する国の教育改革の流れのうえに、本校は県下を代表する進学校として、時代のリーダーを養成する使命を担ってきました。これからの本校卒業生は、ますます高度化し変化の激しい時代に、国の内外で信頼されながら活躍するリーダーとして、専門的な知識技能とともに、人間性に富んだ豊かな心を持ち合わせなければなりません。

3年後の創立100周年記念は、国の第一、第二の教育改革の精神の元で、本校の先輩諸兄姉が営々と積み重ねて来られた業績を総括し、本校が今後引き継いで行くべき伝統と不易の教育の神髄をしっかりと確認するとともに、第三の教育改革の精神に基づき、これからの1000年に向かって、新たに飛翔する出発点となるものではないかならない、と考えます。

厚く御礼申し上げます。

いよいよ創立100周年記念が3年後に迫って来ましたが、会員の皆様には物心両面での協力を賜わらねばなりません。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

御案内のとおり、今我が国の教育は第三の改革の最中にあります。第一の改革は明治維新の学制改革であり、第二の改革は戦後の民主化政策の中で行われました。第一、第二の改革はいずれも、政治の大変革期に、国家が権力的に、欧米を手本として行われました。そして、両者が目指したものは、方向こそ大いに異なりましたが、それぞれの時代の国家および社会（産業界）に役立つ人材を、大量に画一的に育て上げることになりました。

これに対して、今進められている改革は全く対照的です。政界再編が行われているとは言え、社会は平和で落ち着いています。文部省は各種審議会の答申に基づき指針を示しますが、実際の改革の推進は設置者と各学校の主体的な工夫と努力で行われ、国の内外に簡単に真似られるモデルではありません。そして何よりも、教育の目指すものが、一人ひとりの個性を尊重し、これからの変化する社会により良く適応して、各人が豊かに生きて行けるように、自ら学び続ける態度と能力を身につけさせることです。



新たな100年に
向かって

100周年記念事業実行委員会副実行委員長
膳所高等学校校長 武原 溥



一緒に
100周年事業を

100周年記念事業実行委員会副委員長
膳所高等学校同窓会副会長 宇野敏一

今年、平成7年2月4日ようやく、学校・PTA・同窓会の三者が組織する、膳所高創立100周年記念事業実行委員会が発足しました。1998年（平成10年）が100周年ですから、あと3年です。なにか意義のある記念事業を實行するにはぎりぎりの時間しか残っていないと思われま。

もともと、ここまで来るのに種々の準備の期間がありました。4年前の平成3年の同窓会総会で、100周年を目指して、新会長として宇野勝会長が就任され新役員が決定されました。以来、同窓会報の復刊と「JUNGO IDO・遊藝堂」としての着々の刊行、同窓会事務所の開設と整備、同窓会費の年会費制の採用による同窓会の経済基盤樹立への前進、そして同窓会としての100周年記念事業の実行体制の模索、これと学校およびPTAの考え方とのすり合わせ等々の短からぬ助走を経て、この2月に目に見える第一歩としてホップに踏み切ったところだ。

しかし、やはり残り時間は余りありません。引き続き、実行委員会と同窓会が表裏一体となって次の大きなステップを飛び切り、仕上りのジャンプにつながらねばなりません。実行委員会の各部署の皆さんは、ご自身のお仕事やご生活にもお忙しいなか、それぞれのテーマに一心に取り組んでおられます。今の段階で、同窓の皆さんのお時間やお力をお借りしたいことは幾らでもあります。すでに委員の方から個々にお願ひしていることが色々あるかと思いますが、母校の100周年のために、かたわら、同級の友人との旧交を暖め、年代のかけ離れた同窓の方々との気のおけない付き合いのできる場を期待されて、ご協力いただきたいと思ひます。おついでの時にも、学校の現況を見がてら、同窓会事務所のぞいてみていただけたら幸いです。平日昼間は毎日、同窓生である事務局員の方がおいでです。

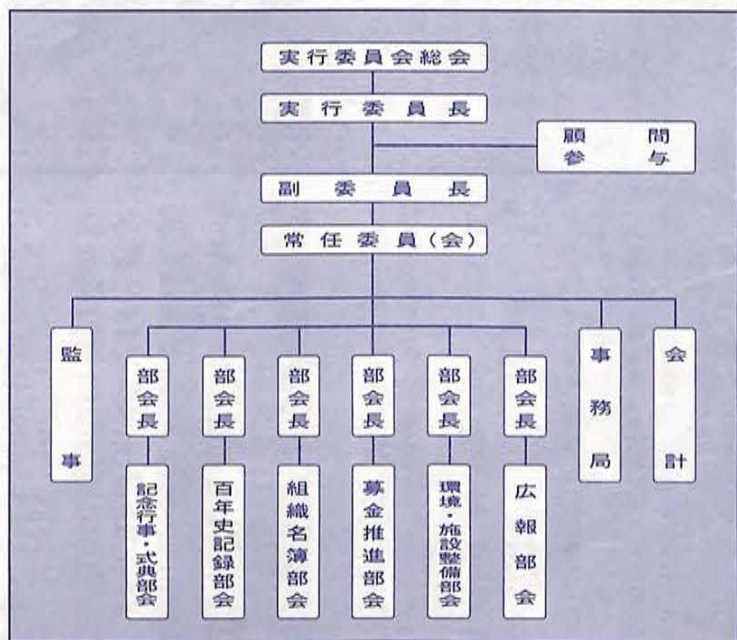
ところで私は昭和18年に旧制膳所中学を卒業しました。当時は戦争に次ぐ戦争で、遂に4年生の12月には太平洋戦争が始まってしまいました。今風に言えは、世間一般が軍国主義的な、また精神主義的なマインドコントロールを受けていたようですが、そんなことも気が付いていなかった私などは全く未熟でした。そのような時代に、膳所中の先生方のなかには、冷静に論理的な思考を植えてくださった方や、淡々と皇国史観の裏を教えてくださった方など、人格的にもたいへん尊敬できる

方々がおいでになりました。これはやはり伝統のある膳所中であつたればこそと、今になっておおいに感じしているところだ。

それから50年余り、社会情勢はすっかり変化し、中学は新制高校に、校名は一転二転三転、校区も次第に変わって今に至りましたが、学校とは不思議なもので、生徒が替わり、先生が替わり、校舎が替わっても校風は脈々と続いているように感じられます。私達の母校が今後いつまでも、楽しい学生生活を満喫した、社会に有為な後輩を送りだしてくれることを祈って、一緒に100周年のマイルストーンを置こうではありませんか。



100周年記念事業実行委員会・組織図



100周年実行委員会 部会報告



同窓会の皆さまのご協力を



記念行事式典部会
部会長 村西康彦

平成10年11月7日に決定

●80、90周年の実績を参考にしながら、以下のような大枠を決定しました。
現在、式典会場、記念パーティー会場や記念講演の講師、演題、記念パーティーのアトラクションの内容等についても、検討中ですので同窓会員の皆様からの具体的な提案、希望等をお寄せください。

●基本方針

- (甲)在校生にも有意義な行事となるように配慮する。
- (乙)晴雨に拘らず円滑に実施できるように配慮する。
- (丙)準備段階も含め、学校の本来業務に支障がないように配慮する。

●期日

平成10年11月7日(第一土曜日)

記念式典(午前)・記念パーティー(午後)



100年史記録部会
部会長 上野滋子

資料提供にご協力を

100年史記録部会では平成10年10月発刊を目指し、60年史、80年史の編集に携わられた先生方から経緯などをお聞きするかたわら、他高校の情報を収集しつつ、毎月第2水曜日の定例委員会で編集方針・企画大綱について検討を重ねてきました。

現時点では、左記の通り3部作として100周年史の編集を進めることになっております。

(甲)本校の創立から100周年までの沿革について史実を中心に記録編集する「教育史」

(乙)同窓会活動や在校当時のエピソードなどを紹介する「同窓会史」

(丙)資料や思い出の写真を盛り込んだ目で見る100年史「写真集」

なお、今後予算などの関係から同窓会史と写真集を合体することも想定しながら編集作業に当たることとしております。また、記念式典の様子などについては、同窓会報や事業特集報で別途報告することとし、100年史は記念式典当日までに発刊する予定でおります。

現在、60年史、80年史、学校新聞など校内資料を整理しつつ、パソコン入力を開始しました。しかしながら、かなりの年代に亘って資料の空白期間が出てきております。この期間の卒業生の方には追ってお願いいたしますが、在校当時の資料のご提供に協力いただきますようお願いいたします。

また、同窓生の方々が在校当時の教科書、文集、制服その他資料を保存されている方がおられましたら事務局または100年史記録部会まで一報いただければ幸いです。ご提供いただいた資料すべてを100年史で紹介することは叶わないと存じますが、校内に資料室を設置し、整備展示するほか、他の部会と相談のうえ、100周年に向けての資料展なども検討していきたいと考えております。

併せて、今後史実、記録の確認も含めて、卒業年度を8回ほどに大別し、座談会も開催の予定をしております。(座談会の内容は小冊子にまとめあげますが同窓会史にはごく一部の掲載となりますのでご了承ください。)

このように本部会では資料収集をはじめ、編集にかかるとともに様々な作業が必要となり、活動期間も3年余りと長期間に亘りますので、今後、部会員の増員や各卒業年度毎に部会協力担当員(仮称)も募っていく予定であります。

なにとぞ同窓生の皆様の格別のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。



組織名簿部会
部会長 岡角憲次

同窓会名簿の正確度向上をめざして

組織名簿部会の事業は大きく分けて次の2つである。(甲)名簿係として、同窓会名簿の正確度の向上を図る。

そのために、住所不明者(約2700名)の調査を該当学年の常任理事の代表(約70名)に依頼している。

また、昭和24年高女卒で同窓会未入会の方(約200名)に勧め25名に入会いただいた。住所、その他変更があれば即刻事務局へご連絡をお願いしたい。

(乙)組織係として、同窓生が卒業後、どんな組織に所属されているかを調査する。これは、卒業学年別、地域別、職場別、部活OB別、等々を全国ネットで掌握したいと現在関係者にアンケートをお願いしているためご協力賜りたい。

なお、常任理事(約300名)に対する委嘱状の発送も担当している。



募金推進部会
部会長 石川 孝

100周年記念事業募金にご協力を

各部会からの予算要求が実行委員会で調整され承認されると募金目標額が自と定まってくるので、その時期を待っている次第です。

県内および他府県の公立高校で既に創立100周年を迎えられて記念行事・事業等をされた資料を集めていますが、卒業生数や贈所高校に対する社会的評価から考えると、募金目標額は1億円以上になると思っております。

ただし、当今の経済情勢から、卒業生並びに関係者の皆様は、その趣旨を充分ご理解賜るよう努力しなければなりません。

尚、募金の時期は平成8年度後半から9年度になりますが、募金の方法等については検討中であります。その節は何卒よろしくお願い申し上げます。



環境・施設設備部会
部会長 阪田 順

アイデアのご提案をお待ちしております

学校長より「校舎改築と第二グラウンド整備について」の要望書が出されており、県教育委員会の回答をふまえて、教育環境の整備、施設の充実、および同窓会メモリアルホール等、100周年に相応しい事業を平成8年10月をメドに鋭意検討中。

どんなご意見、ご要望でも結構です。いいアイデアがございましたら、当部会宛にご提案ください。同窓会員の皆さまの参画意識に期待します。



広報部会
部会長 松平智康

キャッチフレーズ募集、ふるってご応募を

100周年広報部会は、記念環境施設整備の事業PRとそれに伴う募金推進の呼び掛け、式典、祝宴への参加等々を目的とし、以下の事業を進行しつつあります。

(甲)「JUNGIDO」第7号(本号)にての100周年キャラクターとキャッチフレーズの募集。(7面参照)

(乙)現況生徒を含む

(丙)募集後選考、同窓会関係の発送封筒によるピラ宣伝。

(丁)来年度、高校野球・インターハイ予選等の横断幕製作」応援PR。

(戊)校舎での垂れ幕PR。

(己)ポスター製作、贈所高出身関係事業所、事務所への掲示と募金呼び掛け。

(庚)銀行、郵便局での100周年募金振込み可能の立札設置を予定しておりますが、良い案があればご意見をお聞かせください。(7面参照)

周年記念同窓会



真珠会(旧大津)

今年の真珠会は、7月2日に芙蓉園別館において開催しました。松山先生をお迎えして、クラスメイト20名が相集い旧交を温めました。昨年の級会に出席されたクラスメイト2人が亡くなられ、一同悲しみを新たにしましたが、お2人の在りし日を偲び、会の始めに一同で黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。



比叡山の麓、木々の緑の美しい庭園の懐かしい佇は、何とも言えない郷愁とともに学生時代を思い出すのに相応しい雰囲気のごさいでした。庭園の中央を流れる大宮川のせせらぎに緑が映え、清冽な水の流れを眺めての川床で、暑さを忘れて話らうにあつと言う間に時間が過ぎてしまいました。次いで席を芙蓉園本館に移し、白豪の庭園で緑を満喫して、穴太積の里坊の道を帰路につきました。

(目片美智子)

45周年同窓会(大津高一回)

アメリカ・ニューオーリンズ・ディキシージャズのクラリネットアンサンブルの音色が、一斉にオープンした懇親会場のカーテンの外に広がる琵琶湖面と山に懸かる雲に消えていきました。平成7年度の総会に私たち昭和25年卒業同期生が大挙して参加したのは、本年卒業45周年となる節目の歳に当たります。過去30周年、40周年について、同期生はいつのまにか還暦も迎え、まだまだ、第二の人生を歩む人、現役で活躍する人たち、夫々の幸せな顔をお互いに見合う度に人生の尊さ、大切さを感じる機会でありました。全学同窓会の会場では、それ以上に先輩諸氏とも、又、後輩の人たちとの中で同窓会生としての団結を新たに、来る100周年記念に向けて強く歩みたいと念願しています。同期生だけの同窓会でなく、主体的に有意義な一刻でした。



私も縁あって、本年春に設立された「びわこデザイン研究協会」に顧問として迎えられ、第二のふるさと滋賀で、少しでも力になって頑張りたいと思っております。

自然に包まれて余韻を残した、素朴でハーティなサウンドとお喋りと唱った45周年同窓会万歳!
(太田真昭)

関東在住サバサバ会(大津高一回)

出たり、入ったりのメンバー変動はありますが、非常に長続きしている同窓会です。平成7年5月現在の会員は男28名、女29名の計57名で、毎年春秋の2回ワイワイガヤガヤと楽しく同窓会を開催しています。今回は昭和25年の卒業後、45周年として、東京



新名所のエビスガーデンブレイスの「ブコディム一口(会員の伏木政光が社長)のテラスで、晴天下、ヨーロッパ雰囲気でのイタリア料理とワインに舌つみを打ちながら男11名、女12名の計23名が集いました。遠方から岡角さん、荻原さんの後加も頂き、また、その後は新宿のスナックで演歌あり軍歌あり横文字あり、少女唱歌ありの2次会で戻った青春大会で賑わいました。結びの「琵琶湖周航歌」の大コーラスでは、さすがに膳所出身のノスタルジアが溢れておりました。幹事までご連絡願います。

岩村俊作 0467・53・4161
吉沢智子(旧姓奥村) 0427・36・4770

40周年記念同窓会(大津東3回)

40周年記念同窓会(大津東3回) 於大野屋。40周年記念に今回は趣をかね、伊豆熱海温泉に泊旅行で開催しました。9月17日(日)夕5時から泊旅行の開催と決めて以来、楽しみに待ち、やっとその日が来たというのに、台風12号が一足先に関東方面に上陸の報。前夜から気をもみ乍らも予定通り、上り線に乗りました。関東方面で、特に千葉の方からの人は台風の最中で大変でした。

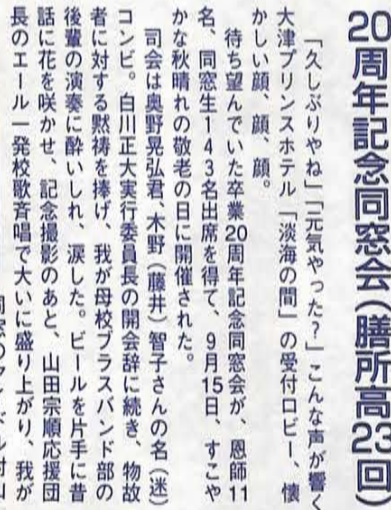
この会は3年毎にやっていますが、初めての人もあり、受付で誰だか名前が思い出せなかった一幕もありました。参加者56名が揃い、6時過ぎから高谷会長の挨拶、同窓会は先細りの会だが昔3年毎、いや2年毎でも元気でいつまでも参加できるようにと。前回元気で参加された友も物故者の黙祷名簿の中にあり、ひとしおの寂しさを感じました。



今回「遠征」のため恩師へご案内を控えさせていただき、同窓生だけの会となりました。集合写真の中で前列には恩師とヤジが飛び、にぎにぎしく前後入れ替わりなどして、やっとシャッターが押されました。4月生まれのお姉さん大洞武美さんの粋な乾杯の発声に沸く中の開宴。わいわいいう間に3時間がたち、中締めには関東代表の内田豊さんの粋なジョークには皆が笑いこころ

20周年記念同窓会(膳所高23回)

「久しぶりやね」「元気があった?」こんな声が響く大津プリンスホテル「淡海の間」の受付ロビー、懐かしい顔、顔、顔。待ち望んでいた卒業20周年記念同窓会が、恩師11名、同窓生143名出席を得て、9月15日、すこやかな秋晴れの敬老の日に開催された。



同窓のアイドル村山(岩本)昌子さんの開会辞であったという間に感動の一次会が終わった。

美しい琵琶湖や思い出の膳所公園を横目で見ながら、一路向岸のロイヤルオークホテルへとバスを走らせた。70年代の音楽をバックにゲームに興じ、賞品・賞金獲得に血眼になる。青春を謳歌した学生時代に戻って、肩を組み「琵琶湖周航の歌」を大合唱。とても楽しく愉快な、そしてすばらしい一日を過ごした。5年後の再会を誓い合い、それぞれの三次会へと場を移した。

16周年記念同窓会(膳所高27回)

日時・平成7年4月29日(祝)
場所・ラフォーレ琵琶湖(守山市)
出席者・先生5名 卒業生68名



卒業して16年が経ち、第2回目の同窓会を開催することになりました。国松・久米・井村君3幹事のお世話で各クラス毎に円卓を組み、各々のテーブルに恩師が着座していただく形で、近況報告・アトラクション・全員参加のゲームと多彩な楽しい企画で2時間を過ぎました。16年ぶりで出合った、あの時のクラスメイトの変貌ぶりに驚いたかと思うと、昔のままの人もあり、本当に懐かしく楽しい思い出の1ページでした。(小野寺和徳)

卒業年別平成7年度同窓会費納入状況

卒業年 納入者数 納入金額合計

大正9年(膳中)	2名	6,000円
大正10年(膳中)	1名	3,000円
大正11年(膳中)	2名	6,000円
大正12年(膳中)	2名	6,000円
大正13年(膳中)	2名	6,000円
大正14年(膳中)	6名	17,000円
大正15年(膳中)	6名	17,000円
昭和2年(膳中)	2名	6,000円
昭和3年(膳中)	6名	17,000円
昭和4年(膳中)	6名	17,000円
昭和5年(膳中)	3名	9,000円
昭和6年(膳中)	8名	24,000円
昭和7年(膳中)	5名	15,000円
昭和8年(膳中)	12名	36,000円
昭和9年(膳中)	11名	33,000円
昭和10年(膳中)	17名	51,000円
昭和11年(膳中)	19名	57,000円
昭和12年(膳中)	16名	48,000円
昭和13年(膳中)	17名	51,000円
昭和14年(膳中)	28名	84,000円
昭和15年(膳中)	21名	63,000円
昭和16年(膳中)	25名	75,000円
昭和17年(膳中)	35名	105,000円
昭和18年(膳中)	52名	156,000円
昭和19年(膳中)	35名	105,000円
昭和20年(膳中)	96名	288,000円
昭和21年(膳中)	7名	21,000円
昭和22年(膳中)	55名	165,000円
昭和23年(膳中)	36名	108,000円
昭和24年(膳中)	6名	18,000円
昭和24年(膳中)	23名	69,000円
昭和24年(膳中)	10名	30,000円
昭和25年(膳中)	80名	240,000円
昭和26年(膳中)	19名	57,000円
昭和27年(膳中)	121名	363,000円
昭和28年(膳中)	105名	315,000円
昭和29年(膳中)	111名	333,000円
昭和30年(膳中)	113名	339,000円
昭和31年(膳中)	86名	258,000円
昭和32年(膳中)	104名	312,000円
昭和33年(膳中)	86名	258,000円
昭和34年(膳中)	99名	297,000円

財務部会

平成7年度総会開催される

平成7年度 滋賀県立膳所高等学校同窓会総会



第一面下段でご報告致しましたように、定時総会が開催され、数多くの同窓生が集いました。宇野勝会長は、着々と進みつつある100周年事業の経過報告もまじえ、同窓会および100周年事業への協力を呼びかけました。

武原簿学校長は、膳所高の現状を色々なエピソードもまじえながら報告、進学や課外活動等、大いに健闘している旨、お話し下さり、同窓生一同を安心させました。

講演では、長崎氏が中央政界の様々なエピソードを具体的かつ軽妙にお話し下さり、これからの政界再編の見通しや、大物政治家の裏話まで楽しく解説、時間が足りないくらいでした。

さて、懇親会は、若い人は20代から、最年長の80代の大OBまでの大宴会。この日はやはり年の差も忘れ(?) 想い出話に花が咲き、予定の時間もなんのその。

クライマックスは、全員参加の大ビンゴゲーム。ビンゴゲームは初めてのOBも近くの若い人に教えてもらいながら、理屈がわかってくると、子供のように一喜一憂、会長や学校長に賞品が当たると、皆からヤンヤのカッサイ！老若男女が童心に返った瞬間でした。

賞品が終了すると、フィナーレ。来年の再会を約束してお開き。勿論、数多くの同窓生が二次会、三次会と流れて行ったのは言を待ちません。

とある先輩の言、「日曜日の昼過ぎから飲んで、10時間以上飲みっぱなしや。」こんな熱心な(?) 同窓生諸氏がおられる間は同窓会も安泰。

暮れなずむ湖辺に放歌高吟、青春時代はまだ遠からず、の一日でした。

(新川均)



事務局日誌

事務局体制について

事務局に就いているスタッフは若代敦子氏(膳所高24回)を中心に、松尾久美子氏(膳所高16回)、奥村友子氏(膳所高16回)の三氏がローテーションを組んでいます。時間は基本的に午後1時~5時まで。もちろん総会前などは午前中からつめています。

仕事の内容は、一般事務から議事録の作成まで様々。同窓会員に対するサービスとしては、名簿の打ち出し(パソコンでタックシールの状態で打ち出すので、後は封筒に貼るだけ)や名簿の整理の手伝い(パソコン管理による)等。

また、各学年やクラブ等の会議をされる場合、事務局を御利用ください。最大限20人程度入ることが出来ます。コピー、FAXの利用も可。(パソコンを利用されたい場合は事前にご連絡ください。勝手に利用できません。)

右記の内容をご存じない同窓生もたくさんおられると存じます。皆さんご連絡をとりあつて、同窓会事務局および事務室を最大限ご利用くださるようご案内申し上げます。

平成7年度同窓会会務報告

- 1995年
- 平成6年度会計監査
 - 第2回常任理事会
 - 組織部会
 - 平成7年度同窓会総会
 - 同窓会総会反省会
 - 第1回役員会
 - 総務部会
 - 組織部会
 - 懇談会
 - 総務部会
 - 広報部会
 - 広報部会
 - 広報部会
 - 第2回役員会
- 平成7年度100周年実行委員会会務報告
- 1995年
- 環境・施設整備部会
 - 平成6年度会計監査
 - 第2回常任委員会
 - 組織名簿部会
 - 100年史記録部会
 - メディア懇談会
 - 100年史記録部会
 - 募金推進&
 - 環境・施設整備合同部会
 - 100年史記録部会
 - 実行委員会の準備会
 - 広報部会
 - 部長会
 - 100年史記録部会
 - 100年史記録部会
 - 部長会



会費未納の方！ご協力ください。



「JUNGIDO」の発行に1回400万円がかかります。

現在「JUNGIDO」は、同窓会員全員(約27,000人)にお届けしておりますが、この発行にあたっては、広報部会員をはじめとして、同窓会役員と同窓会への熱い思いにささえられているというまでもありません。そして、その費用は、当然会費でまかなっているのですが、1回発行すると400万円、郵送料だけでも約200万円もかかるのです。

100周年の1998年までは、なんと去年2回発行で同窓会活動を盛り上げたいと考えていますが、今年度の会費納入状況は9月末日現在、1、4、5面に掲載のとおり、10,001,800円ですので、年2回で800万円とすると、会費のほとんどは「JUNGIDO」の発行で使ってしまうことになります。

ちなみに会費納入者は3341人、納入率は12.4%です。100周年へ向けて、会費納入にご協力ください。

平成7年度会費未納の方は同封の振替用紙にて納入ください。なお、住所等に変更がある方は振替用紙の裏面にご記入をお願いいたします。

記	(会費額)
年会費	3,000円
5年会費	15,000円
10年会費	30,000円

いずれかの会費を選択のうえ納入していただきますが、誠に恐縮でございますが、できる限り、5年または10年会費の納入をお願い申し上げます。新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみとします。

〔納入機関〕(振替用紙は共通です。)

郵便局 01010-3-30378

銀行 滋賀銀行 本店(110) 普 913381
びわこ銀行 本店(111) 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会会長 宇野 勝 です。
※同窓会からの領収書は発行していませんのでご了承ください。

旧職	昭和35年(膳所高)	昭和36年(膳所高)	昭和37年(膳所高)	昭和38年(膳所高)	昭和39年(膳所高)	昭和40年(膳所高)	昭和41年(膳所高)	昭和42年(膳所高)	昭和43年(膳所高)	昭和44年(膳所高)	昭和45年(膳所高)	昭和46年(膳所高)	昭和47年(膳所高)	昭和48年(膳所高)	昭和49年(膳所高)	昭和50年(膳所高)	昭和51年(膳所高)	昭和52年(膳所高)	昭和53年(膳所高)	昭和54年(膳所高)	昭和55年(膳所高)	昭和56年(膳所高)	昭和57年(膳所高)	昭和58年(膳所高)	昭和59年(膳所高)	昭和60年(膳所高)	昭和61年(膳所高)	昭和62年(膳所高)	昭和63年(膳所高)	平成元年(膳所高)	平成2年(膳所高)	平成3年(膳所高)	平成4年(膳所高)	平成5年(膳所高)	納入者総数	納金額		
	109名	109名	101名	97名	83名	73名	53名	81名	75名	54名	59名	44名	46名	50名	46名	36名	33名	36名	36名	34名	35名	38名	38名	58名	38名	39名	32名	43名	27名	40名	47名	36名	50名	22名	9名	13名	3,341名	10,001,800円

(平成7年9月30日現在)

「お名前広告」募集しています。
掲載内容/卒業年度・卒業回
勤務先・お名前・住所・TEL/1枠一万円
お申し込みは同窓会広報部まで。

恩師訪問

岡田節夫先生

私を育ててくれた膳所高



岡田節夫先生略歴
 ・岡山県生まれ
 ・昭和23年 京都大学理学部地質学
 物理学科卒業
 ・膳所(大津・大津東) 高校教諭
 ・大津中央高校校長
 ・堅田高校校長
 ・彦根東高校校長
 ・昭和60年秋 文部大臣表彰
 ・現在 龍谷大学教授

今回は膳所高に24年間在職され、理科を担当されてきた岡田節夫先生を、龍谷大学の瀬田キャンパスにお訪ねしました。先生は現在、同大学の社会学部の教授をされています。緑に囲まれた美しい大学の一角でお話を伺いました。

膳所高にいられたいきさつから現在までのご経歴などお聞かせください。

大学の研究室に残っていたとき親父に死なれ、自分で飯を食わなくちゃならなくなり、同じ研究室で膳所高の講師をしていた人の紹介で膳所高へ行きました。当時の林浩校長に会いまして、林校長が旧制第六高等学校の先輩で、早速「来るか」ということで膳所高に勤務することになりました。昭和25年のことです。新学制となり、旧制浪速高校教授から来られた林校長が人材を集め、自分の理想とする学校づくりを目指しておられました。2、3年のつもりでしたが、24年間ぬくぬくとお世話になってしまいました。

49年、突然教育委員会に入られました。教師というのは子どもがいて教師なんです。5年間の委員会勤務は味気ないものでした。ただ、現在大学で学生相手に「学校教育の仕組み」などについて話すことができるのは委員会での経験のおかげです。次の現場勤務は大津中央高校(定時制)でした。膳所高しか知らない者にとっては大変なところでした。校長として2年間勤務しましたが教えられるところが多かったですね。定時制本来の生徒たちは強い向学心に燃え、教員への姿勢など真剣そのものでした。56年、堅田高校へ赴任。学校への信頼を得るために現場一体になって努力しました。次にまた教育委員会に1年勤めた後、59年彦根東高へ赴任。2年間勤めて定年退職。平成2年から龍大に勤務。教職科目を指導。現在は学生相手に気ままな暮らしです。

先生にとって膳所高とは。僕を育ててくれたところです。松山義夫・三輪敏子両先生がおっしゃっていますが心のふるさと、母校の

ようなところですよ。昭和20年代、30年代、林校長が集められた個性的な先生方、その中で多くのことを学びました。松山先生を初め理科だけでも、馬杉七郎先生、八耳順明先生、谷元峰男先生…。

先生は旧制中学の4年修了で旧制高校へ進まれましたが現在の大学進学で現役、浪人についてどのようにお思いでしょうか。

当時の旧制高校入学者のほとんどが中学5年卒か浪人の経験者です。連中はしっかりしていました。4修の僕らは精神的に未成熟で口ばしが黄色いという話になりませんでした。この年代の1年、2年は大きいです。近頃、親ごさんたちは子どもの現役合格を希望されますが、1年や2年くらい浪人生活は長い人生の中でマイナスにはならないのじゃないですか。高校3年間、スポーツでもなんでも好きなものを一杯やった経験は大きいし、その中で社会性や様々なものが身につけていくのだと思います。

長年理科を指導され、特に膳所高では理科班の基礎を作り、輝かしい伝統を築いてこられました。理科の指導を振り返られてどのような思いをお持ちでしょうか。

理科の指導で生き甲斐を感じていたことが三つあります。一つ目は理科班の指導です。道具も設備もないところで大学の研究のようなことができました。八耳先生と一緒に体を張って苦労しました。子どもたちもよく応えてくれました。論文提出の頃は毎日夜の10時11時でした。現在も引き継がれ昨年も全国学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞しています。嬉しいですね。二つ目は軽井沢への地学実習旅行です。38年に八耳先生や南池宜樹先生を始め、辛い現在も受け継がれています。火山学習などは現地で実物を見て初めて分かるものです。三つ目は滋賀県高校の地学という科目を現



在まで存続させてきたことです。他府県では消滅してしまっただけが多いようです。教え子の中で理科の分野に進まれた方も多いと思えます。

教え子の中に日本の地球科学関連の学昇で活躍する大学の先生が10人ほどいます。学会で彼らの講演を聴いたり、年賀状などでその活躍を知ると嬉しく誇らしい思いです。彼らの踏み台になれたかなという感慨もあります。

卒業生に望まれることは。

「学校教育法」には、教育の目標として、小学校では「自主自律の精神」中学校では「公正な判断力」高校では「健全な批判力」を養うことがあげられています。今、どれも充分ではありません。若者たちには、自分でものを考える人間になってほしい。それには親も教師も大きく放つて見守ることが大切でしょう。膳所高OBの保護者の方、特にお母さん方は大きな広い心で子どもたちや学校を信頼して任せていただきたいと願います。

また、3年後の創立100周年は皆さんで膳所高に相応しいものにしてください。期待しています。

ご趣味は山歩き、仏像・絵画観賞。「何でも見てやろう」精神の旺盛な先生でした。

姿勢正しく軽やかな足どりで龍大の広くて美しく、且つ設備の充実したキャンパスを案内していただき楽しい半日を過ごさせていただきました。一同、先生のご健康を祈りつつ帰路につきました。(花坂)

同窓生投稿欄の寄稿をお待ちしております。

周年同窓会予告

■昭和14年卒業(膳中37回)

・平成7年11月12日(日) 正午

・会場/守山ホテルレクビワ

・幹事/高田信昭 元藤庄太郎

TEL 0775-222-6861(元藤)

・世話役/森田・池永・中村

■昭和18年卒業(膳中41回)

卒業52周年記念同窓会

・平成7年11月19日(日) 正午

・会場/石山 あみ定

・幹事/飯田勝一・尾松 譲他

TEL 0775-222-2380(飯田)

■昭和26年卒業(大津高2回)

膳所高二六会

・平成7年11月12日(日) 午前11時45分

・会場/ホテルニューオウミ

・幹事代表/竹内義夫

TEL 0775-23-1303

同窓生投稿欄

50歳記念誌書湖一周駅伝



4月16日午前8時、厚く雲がたれる琵琶湖北端の飯浦に一発の号砲が響いた。膳所高校38年卒業生による「50歳記念誌書湖一周駅伝」のスタートである。東回り西回りの2コースに分かれ、一緒に高校にゴールインするもので、中継点では環境保護のため清掃作業も組み込んだ大イベントである。快挙と暴挙を隔てるのは、周到な準備と中止する勇気と判ってはいいても、成功への熱き願いと一抹の不安と胸中で交差する。新聞報道のプレッシャーもずしりと思ひ。そんな中、関係者の献身的な努力で、雨の中にもかかわらず無事29人の走者が自己の持ち分を完走し、二人のアンカーが高校正門のテープを切った瞬間、琵琶湖一周駅伝の快挙がなった。全ての顔に喜びの笑みが浮かび、大きな歓声と拍手が渦をまいた。続いての懇親会は、参加者全員が演出者となり、はちぎれる満足感と素晴らしい感動に満ち溢れたもので、惜しみつつ互いの再会を約束してイベントの幕は下りた。(小笠原 勇)

●この投稿欄を自由にお使いください。

宗教誌の編集に携わって十余年 郁芳随浩さん

昭和45年卒業（膳所高18回）

最初におことわりしておきます。私は、写真を写すのは好きですが、自分を写されるのは好みませんので、あえて顔写真の掲載を辞退しました。

私は現在、野洲町市三宅の願生山安楽寺の住職であり、また京都の知恩院に勤務しています。「どちらも寺ではないか」と思われる方もおられるでしょうが、知恩院の勤務時間は一般企業と同じように、午前9時から午後5時まで（10月から3月の間は午後4時30分まで）となっており、昨年よりコンピュータの導入で、IDカードにより出勤を管理しています。この中で、知恩院の発行しております月刊誌「知恩」の編集を担当しているのです。

最初に書きましたように、高校時代から写真を撮るのが好きでした。3年生の時は、アルバム委員もしていたのです。大学時代も写真の同好会に入り、カメラ雑誌の月例に入選したこともあります。でもプロとしてやっていこうとすると、寺を嗣ぐのは不可能です。そこで知恩院に就職したのですが、その中で各種行事の記録も業務としている編集室に配属されました。当時、編集室では『華頂』というグラフ誌も編集しており、最初の一年間はそちらの作業が主だったのです。前任者が辞め、新任者を指導しながらふたつの出版物を担当する事、1年、『華頂』を新任者に任せて、それ以来「知恩」のすべての作業を行ってきました。

この「知恩」は宗教雑誌といっても、一般の方々に執筆いただく部分があり、有名人や大学の先生等に執筆の依頼をします。また俳句や短歌の欄もあり、選者との連絡を密にしなければなりません。その上、毎月の号のほかに、3月には「おひがん特集号」、7月には「おぼん特集号」を同時発行しますので、2月と6月は編集作業に猫の手も借りたいような状態となります。現在は医療関係者による「白衣の提言」という短期連載の欄も設けており、読者に喜んでいただくために、いろいろな企画を練っています。因みに平成7年分の表紙は、守山市在住の小児科医・西藤正雄先生（膳所卒業生のはずです）の日本画（一部はお持ちのボジを借用。ないものは、絵を複写）を使わせていただいております。

同窓生の方に原稿依頼をする事があるかと存じますが、そのおりによろしくお願ひします。

●プロフィール

郁芳 随浩
生年月日/昭和27年1月15日
職業/浄土宗 願生山安楽寺住職
浄土宗総本山知恩院編集室勤務
趣味/写真、オーディオ、ジャズ観賞等



あの人は今…

近況 OB 報告



研修旅行を終えて…

山本由紀さん

昭和59年卒業（膳所高32回）

昨年9月から今年6月末までアメリカのミシガン州に交換教員として派遣されてきた。そもそもこの派遣に興味をもったのは、滋賀県に生まれ育った自分の世界があまりにも小さく日々の忙しさに追われてしまっていること、その忙しさを理由に自分自身の勉強を怠っていたことを少しでも変えたいと思っていたからである。現地での私の仕事は、デトロイト近くのウォールドレイク学区の小・中・高校で日本の文化を教えるということであった。

さて、この派遣で得た財産は人との出会いである。特に10ヶ月間、本当の家族と同様に接してくれたホストファミリー。そして、汗を共に流したミシガン州立大学剣道クラブの仲間達との出会いである。ここではこの剣道仲間と過ごした場面を思い起こそうと思う。

まず仲間を知ったきっかけであるが、私は派遣前から、大学時代より始めた剣道を是非、アメリカの子供達に紹介したいと思っていた。そこで竹刀を30本日本から送った。それを担当してくれたある宅急便会社デトロイト支社の井上さんという方と荷物の受け渡しのこと話したところ、偶然井上さんも剣道をしていたということがわかって、会話がはずみ、大学のクラブのことを教えてくださったのである。

1枚の地図を頼りに出向いた道場。そこではロンとマイクという2人のアメリカ人が指導をしていた。メンバーはこの2人を中心に大学生以上が6人くらい。初心者、子どももあわせると20人くらい。私は週2回参加していた。ロン達と同じ四段である私も指導にあたるべきであったが、私はただ教えてもらうことばかりだった。とにかく基本に力を入れた。しかし、試合が近いから、試合に勝ちたいから稽古に励む、という気持ちではなかったように思う。「自分の心と身体を鍛えるために」稽古をする、このことを一番に考えていた。仲間とは10ヶ月間で3つの試合に出場した。シカゴ、クリーブランド、ニューヨークで開かれた大会である。どこにでも車で出かけた。交替で運転をし旅行気分だった。剣道をしていたからこそ出会えた仲間をこれからも大切にしていこうと思っている。

今まで知らなかった人と出会うことによって、自分の知らなかった世界を知ることができた。それも剣道を通して、より深く実感することができた。それが何よりうれしいことであった。

●プロフィール

山本 由紀
生年月日/昭和41年1月31日
略歴/滋賀大学教育学部卒
水口中学校勤務
現住所/大津市電が丘26-3

後方はメキシコ・ティオティワカン遺跡▶



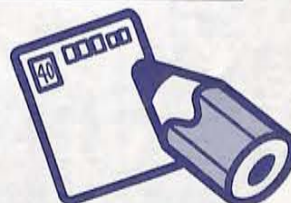
100周年事業部会より

広報部会

100周年シンボルキャラクター・キャッチフレーズ募集!

- シンボルキャラクター…募金活動などの広報媒体に使用する、100周年にふさわしいキャラクターをお待ちしております。
- キャッチフレーズ…いろいろな広報媒体に使用する、100周年事業を盛り上げるスローガンなどのキャッチフレーズです。

- 応募資格/同窓会会員（家族の方も大歓迎）・膳所高生
- 募集/切日/平成7年12月31日
- 応募方法/キャラクター・キャッチフレーズとも官製ハガキ、またはFAX (0775-24-1732) にてご応募ください。
- 賞品/大賞（それぞれ採用分1点）同窓会オリジナルテレホンカード2枚
佳作（各10点）同窓会オリジナルテレホンカード2枚
- 審査/100周年実行委員会
- 発表/JUNGIDO 8号紙面
- キャラクター、キャッチフレーズとも補作することがあります。



お気軽に

100年史記録部会

在校当時の教科書、文集、制服、
その他資料などのご提供に
ご協力ください。

100年史や資料展に活用いたします。
事務局 (0775-24-4295)
までご一報ください。





膳所高 NEWS



膳所高生今昔

僕は、自分が膳所高の生徒であった時のことを思い出すのは好きではない。あまりにも自分が怠慢だった上に考えが浅く、後悔することが多すぎるからである。とにかく音楽が好きで家に帰るとレコードばかり聴いていて、ちっとも勉強しなかった。それで、こうやって母校で英語を教えている今、勉強不足の生徒を叱る自分を、「お前はどうかしたのか」と窘めるもう一人の自分がいて、こんなことならもう少し勉強しておけばよかったと痛切に思う。

子供の時分、親戚に腕のいい大工さんがいた。その人が丁稚奉公の修行中、親方連中は何一つ教えてくれなかったのである。見様見真似で道具を使ってみる。失敗すると、金槌が頭にとんでくる。そうやって鍛えられて上手くなった。明治時代の話である。

3年生を受け持つと、英作文の個人添削をせねばならない。大勢来ると大変なので、「やめといた方がいいよ。金槌で頭を殴るかもしれんぞ。」とおどかす。嬉しいことにそれでも来てくれる。中には「ヘルメットをかぶってきます。」と言ってくれた女の子もいた。僕は、そういう生徒の姿を意気を感じて頑張った。ところが、最近は少し雰囲気が違う。一寸厳しさを求めると、萎縮して質問にも来なくなる。我々が思っている以上に、プレッシャーに弱くなってきているのかもしれない。僕は、毎時間「暗唱文」なるものを指定して、授業のはじめにあて言わせたり、いろんな質問をしたりして授業に緊張感をもたせようとしている。以前は、「心臓が悪い」とか言いながら、結構楽しんでいる様子も見られたが、今はまるでお通夜だ。教育実習生の授業は、「安心して受けられる」のだそうだ。今年の生徒には、「金槌で頭を殴る」などは冗談でも言えそうにない。

構造的な視点から見ると、土曜日の休みが増えて、学校は余裕がなくなった。アンケートによると、僕のクラス(1年生)のかなりの生徒が、勉強に追いまわされず、もう少し楽しみの部分がほしいと感じている。確かに1年生は、クラスで燃焼できる行事が効果的に配置されておらず、担任はクラス作りに苦労する。僕は、生徒のエネルギーがなくなっているとは思わない。システムの問題点を改善して、学校での活動の様々な場面で生徒が覇気を取り戻せるような方策を考える時期に来たと感じる。おとなしくてまじめな生徒が多いだけに、真剣に考えてあげないと可哀想だ。無論、我々にも燃料は必要です。(奥村弘史)



編集後記

●在学中は人づきあひも悪く、「勉強ばかりしている変人」だったに違いない僕ですが、この度立派に教師として母校に帰ってくるのができました。遅滞しながら、元新聞班員の腕を活かして皆様の役に立ちたいと思っております。当紙はもちろん100周年事業の報告を主としますが、「近場の者で集まって飲み会をしましょう」とか「今度2年間ニューヨークに住みます」とかいった、100〜150字程度の伝言で埋めるページも必要だと感じています。紙面充実にご協力下さい。なお、職権濫用ではございますが、当方結婚できずに困っておりますので、ぜひこちらの方にも情報をお寄せ下さい。(K・I)

- 上野滋子 (東2) ・ 谷口啓司 (膳10)
- 田中美津代 (東4) ・ 佐田葉子 (旧大)
- 山田 勲 (膳11) ・ 宮崎美恵 (大3)
- 西谷智恵子 (東2) ・ 高橋好乃 (東4)
- 花坂多恵子 (膳6) ・ 服部 稔 (膳12)
- 岩崎則子 (膳26) ・ 吉田 章 (膳26)
- 福井 浩 (膳29) ・ 谷澤一輝 (膳32)
- 松田和代 (膳33) ・ 本多美香 (膳33)

CAI教室設置に伴う コンピューター導入

「膳所高校にCAI教室を導入する必要があるのか!」県の整備計画に従って、本年度の導入が決定されたとき、何よりも先に、この素朴な疑問に対する答えを見つける必要がありました。様々な角度からの検討がなされた結果得られた結論は、「今、現実に役立つ道具」としての位置付けでした。文字通り、現在の授業や進路指導をコンピューターにアシストさせようと言うことです。この方針に従って、利用方法を次の3つにまとめることにしました。

- 教材提示システム
一般教室では提示することが困難な教材をコンピューターを用いて提示することで、生徒の理解度を深める。例えば、立体図形の表示や、そのアニメーションは今までの教室で見せることは難しかった。
 - 入試問題検索システム
各教科・科目における入試問題をデータベース化し、一人ひとりの生徒が自分の学習進度に見合った問題を検索できるようにする。画面上で参照した問題は、プリントアウトして持ち帰り鉛筆で取り組む。
 - 校外ネットワークとの接続
大学進学にあたり進路決定のために最先端の情報にアクセスし、その空気に触れることができるようにする。
- この3つを大きな柱として、膳所高校に役立つシステムの構築が現在進行中です。教室の完成は10月上旬使用機器も二学期中に完備される予定です。(教務課 音野吉俊)

家庭科男女共修について

1994年度より、高校に於ける家庭科の男女共修が始まりました。生徒達は、小・中学校とすでに共修で学んできており、スムーズに導入されました。家庭を取り巻く環境の変化に対応し、男女が協力して家庭生活を築いていくために、生活に必要な知識と技術を修得し、ひとりの生活者として自立することが目標です。

衣生活分野では、昨年はパッチワークでクッションを作りました。辺が9cmの四角形や三角形を縫い合わせながら模様を作ります。女子はコックツツ仕上げしていく生徒が多く、安心して見ていられます。「男子は?」と思いきや、毎時間一番に仕上げられて「男子は?」と感心させられる生徒もあり、男女差ではなく個人差である事を痛感しました。

食生活分野では、今年度は調理実習をしています。粗いキャベツのせん切りから、プロ並みの大根のかつらむきまで、男女を問わず、生徒達の生活経験の有無がそのまま表われています。

家庭生活分野では、これからの高齢化社会を健康に充実して生きるために、どの様な事を身に付けなければいけないかを学習します。昨年夏は、車イス体験や介護実習をし、今年度は生き生き暮らしておられる高齢者の方にお話を伺うため、校外にも出掛けられる核家族で暮らす生徒達が多く、高齢者の方との触れ合いの中から多くの事を学んだ様です。

和気あいあいとした楽しい雰囲気の中からも自分の将来を見つめ、それに必要な知識や技術を習得していくって欲しいと願っています。(家庭科担当 河口朋子)

雨のなかの学園祭

去る7月13日(木)から15日(土)に予定されていた学園祭は、準備期間から雨に悩まされ続けることになりました。

準備期間に入ると同時に降り始めた雨は、止むことを知らないように思えました。毎年人気のマスケゲーム部門の練習も校舎内へ追いやられ、狭い校舎内では他部門との共生も苦しく、例年とは違った雰囲気をつくり出していました。準備期間の半ばからは何とか屋外での練習も行うことが出来るようになりました。ぐずぐず空のもと、それでも本格的な雨には至らず、1、2日目の文化祭は終了しました。

ところが、3日目の体育祭という時になって雨の予報です。早朝は嫌なモード。入場行進の時には小雨がぱらついていました。それでも、先生方の判断に従って、体育祭を進行していましたが、途中から本格的に降り出してきました。水はけが悪く、入れすぎた土がドロドロになったグラウンドは滑るし、マスケゲーム部門の発表ができるかどうか心配です。しかし、私はテントへなげかけられるこんな状態でまだ続けるのか?との声に何の判断も下せないことを口惜しく思うだけで、進行し続けなければなりませんでした。

雨の中とはいえ、各ブロックのすばらしいマスケゲーム発表が行われていましたが、4つ目の発表途中で急に激しい雨が打ちつけてきました。一時中断です。結局翌週に残りのマスケゲーム発表のみ行って、学園祭は終了しました。学校の事情だからと、残っている競技等が行えないことをみんなに説明しながらも、やりきれなく感じていましたが、今はそれも良い思い出、良い経験になったと思っています。(生徒会長 西田 元)



班活動報告

●空手道班 出田智也(3年) 全国大会出場
●水泳班 澤本 壮史(3年) 決勝8位
●水泳班(水球) 土屋さやか(3年) 3位
●カルタ班 全国大会 個人戦B級
●放送班 NHK杯全国学校放送コンテスト 朗読部門 準決勝進出

●男子バスケットボール班 近畿大会出場
●女子バスケットボール班 近畿大会出場
●男子ソフト・デューエット 近畿大会出場
●女子ソフト・デューエット 近畿大会出場
●男子ソフト・デューエット 近畿大会出場
●女子ソフト・デューエット 近畿大会出場

●男子ソフト・デューエット 優勝 2516位
●女子ソフト・デューエット 優勝 7位

健闘光る!夏の全国大会

今年の夏も、灼熱の太陽にも負けず、各級の活躍が目立ちました。日頃の厳しい練習の成果を挙げた各班の主な成績をご報告します。

